

自己評価報告書
平成28年度

平成29年4月

学校法人 読売理工学院

専門学校 読売自動車大学校

目 次

はじめに	2
1. 学校の教育目標	
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	3
3. 評価項目の達成及び取組状況	
(1) 教育理念・目標	4
(2) 学校運営	
(3) 教育活動	
(4) 学修成果	
(5) 学生支援	
(6) 教育環境	
(7) 学生の受入れ募集	
(8) 財務	
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	19
5. 資料	20
資料－1 就職率	
資料－2 求人受付数	
資料－3 資格取得率	
資料－4 退学率	
資料－5 入学者数	
資料－6 学生納付金	
資料－7 学生対象授業アンケート（用紙）	
資料－8 科目の教育目標・授業計画（用紙）	
資料－9 授業概要（用紙）	
別 冊 資 料	
1. 学科教育目標	
2. 科目の教育目標・授業計画	
3. 学生対象授業アンケート集計結果	
4. 学生便覧（履修要項）	
5. 学校案内	
6. 募集要項	

はじめに

専門学校は、教育機関として、在学生在がよりよい教育を受けることができるよう、学校運営・教育活動等について常に改善を図り、教育の質の向上に努める責任がある。また、学校運営・教育活動等の学校情報を公表し、学生・保護者をはじめとする学校関係者に対し、説明責任を果たすことが求められている。

平成 19 年 6 月の学校教育法改正に伴う「学校評価に関わる学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」の公布により、専門学校における自己評価と結果の公表が専修学校設置基準上の義務となり、学校関係者評価の実施と結果の公表が努力義務となった。

平成 16 年度より本校独自の評価項目を設定し実施してきたが、平成 26 年度末に本校が職業実践専門課程の認定を受けたことを機に、文部科学省のガイドラインに基づいた自己評価の様式に沿ってまとめることとした。

「学校関係者評価」を今後も実施することで学校運営の改善に努めるが、大学で義務化されている「第三者評価」についても前向きに検討する必要があると考える。

1. 学校の教育目標

本学院の理念・目的は学院設立趣意書に「時代の要請に奉仕するためには、大学と工業高校の間を行く徹底した実技教育を目的とする。」(1969 年 11 月 20 日)と定めている通り、職業に特化した高等教育機関を目指し、読売新聞社が設立した。

本校では充実した職業教育を実施することはもとより、人間性の成長を促すことにより社会で貢献できる人材を育成する全人教育も重要な目的とし、学校運営・教育活動等について改善を常に心がけ、教育の質の向上に継続的に努めることを目標と決意する。

この決意に基づき「自己点検評価」を平成 16 年度より行っているが、平成 26 年度に本校が「職業実践専門課程」の認定を受けたことを機に「学校関係者評価」を実施している。

今後も「学校関係者評価」により学校運営の改善に努めるが、「教育課程編成委員会」を通し教育内容の改善に努めている。

これと並行して「読売式教育メソッド」を制定し、学生の「人間力」「専門力」「資格取得力」「就職力」「基礎学力」をさらに向上させるために改善を進めているが、教員の教育力・人間力の向上も不可欠である。教育力向上を実現するためには、現状の教育内容の客観的な評価が欠かせず、今後は「第三者評価」に対する前向きな取り組みが必要と考えている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

卒業生が、「最高の教育を受けることができた」と思えるよう、「人間性の成長」と「技術・知識のレベル・アップ」を実感できる教育を目標としている。その実現には、教科書に縛られず、より学生に興味を喚起する授業内容を目指し、教育手法の継続的な工夫と、教員の教育力の向上を継続的に追及する取組みが重要となる。

自動車の技術的進化は、近年ますます速度を増している。教育内容を技術進化に対応したものとするためには、学外での教員の技術研修をより積極的に実施することと、企業現場へ教員を派遣し現在の整備体制や企業が求める人材像を具体的に把握するなどの対応が必要であり、今後の課題である。

また、研修等で教員が理解した新技術を授業内容に反映する場合は、理解しやすく興味を持たせる授業内容を工夫しなければならない。そのため、教員は新技術の裏付けとなる基礎工学等の理解度を向上させることも今後検討する必要がある。

「教員は自動車エンジニアの先輩として、後輩である学生を大切に育てる」という校風を大切にし、教育の過程に力点を置き、理解しやすく興味を持たせる授業内容を実施するために、継続的な努力を惜しまない。解り易い授業は学生の定着率向上にも大きな力を持つ重要な取り組みである。

卒業率、国家試験合格率を教育成果としてとらえ、学生に対する学校としての責務とする視点も忘れない。

3. 評価項目の達成及び取組状況

各評価項目に対する評価責任者は、次の通りである。

- (1) 教育理念・目標： 校長
- (2) 学校運営： 本部長
- (3) 教育活動： 学科長
- (4) 学修成果： 学科長・就職委員長
- (5) 学生支援： 学科長
- (6) 教育環境： 教務委員長
- (7) 学生の受入れ募集： 広報委員長
- (8) 財務： 本部長
- (9) 法令等の遵守： 本部長
- (10) 社会貢献・地域貢献： 学生委員長
- (11) 国際交流： 留学生相談室長

(1) 教育理念・目標 3.6 (←3.6←3.4←3.4)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色はなにか	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

①課題

「読売式教育メソッド」に設定した教育目標（目標とする学生像）をより具体的に明確化し、カリキュラムに落とし込むことが今後の課題である。この作業を行うことで教育成果（アウトカム）の明確な評価が可能となる。

自動車整備士教育が特色ある職業教育そのものであるが、自動車技術と整備技術の急速な進歩に応じて継続的に教育内容の調整が必要である。そのためにも、企業との教育連携をさらに充実させることが重要となっている。

②今後の改善方策

カリキュラム編成の検討段階では、新技術を取り入れた教育内容に重点が置かれることになるが、これと並行して、基礎工学的な教育をより充実させ理解力と応用力を養成することにも注力が必要だ。

実習・学科授業の中でも、お客様対応（相手の気持ちを思いやる心）を取入れた具体的なシュミレーションを行わせる等の試みが必要である。

業界で求められる人材を育成する姿勢を維持することが重要であり、育成人材像の明確化がカリキュラム作成の上でも必要である。今後は、二級課程 1・2 年次の育成人材像と一級課程 3・4 年次の育成人材像を明確にし、2 年次修了までと 4 年次修了までに身に付けるべき能力「～ができる」を明確にし、確実な能力のステップアップに向けた教育を工夫する。すなわち、二級課程で求められる整備士としての基礎能力と、一級課程で必要な総合的な応用能力を確実に身に付けた人材を育成する体制とする。

現状に即した職業教育を行うために、教育における企業連携の強化に取り組む。

③特記事項

教育課程編成委員会での検討に基づき、重要な整備技術については反復教育を通じて確実に身に付ける体制を、実習時間を増加させることにより可能とした。また、二級課程での新技術教育への対応として、コモンレール・ジーゼル教材車の導入を行った。

(2) 学校運営： 3.5 (←3.5←3.5←3.0)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・目標等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	③	2	1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

学校の将来像を具体的に描いた総合的な施設整備計画の策定を進める。また、自動車整備の単一学科であることを生かした、効率的な学校運営を推進する。特に、4年制の1級整備学科は、時代の要請に即応した、先進的な教育を取り入れていきたい。

② 今後の改善方策

施設の老朽化対策として、当面、校内美化計画の推進を図っていきたい。必要とされる消防設備の維持・更新は、計画的に実施していく。

③ 特記事項

専門職大学については、設置可能かどうか検討を進めてきた。今回、法改正により正式に創設が決まったため、引き続き、諸条件の整理を急ぎ、前向きに取り組んでいく。

(3) 教育活動 1 級整備学科 3.6 (←3.5←3.4←3.5)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

①課題

学校関係者評価委員会を実施し、関連企業や保護者からの意見を取り入れ、授業カリキュラムの見直しや社会のニーズに見合った教育内容を取り入れるように改善を行っている。しかし、教員の知識習得の機会はまだ十分ではない状況である。

②今後の改善方策

業界からの意見集約だけでなく、実際に企業現場を見学したり、企業教育の現場にも教職員が出向いて時代にあった教育ニーズを身に付けていく必要がある。

③特記事項

特になし

(3) 教育活動 自動車整備学科 3.4 (←3.3←3.2←3.2)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	4	3	②	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	②	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

①課題

関連分野の企業等と連携した教育が不十分である。

②今後の改善方策

教員が積極的に研修等に参加し、個々の教育レベルを上げる必要がある。研修会も企業が開催するものや、自動車整備振興会が開催するものがメインであり、まだ参加機会が少ない状況である。

③特記事項

特記事項なし。

(4) 学修成果 1 級整備学科 3.0 (←3.0←3.4←3.6)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	3	②	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

①課題

就職に関しては、卒業生全員の内定が決まり成果が得られたが、国家試験の合格率が全国平均を上回ったものの、前年を下回ってしまった。学生の技術力を下げずに国家試験の合格率向上が一番の課題となっている。

②今後の改善方策

一昨年から徐々に国家試験対策の日程や内容の見直しを行っているが、近年、試験問題の難易度が高くなっており、かなり早い段階から国家試験を意識した教育体制を整えていく必要に迫られている。

③特記事項

特になし

(4) 学修成果 自動車整備学科 3.0 (←2.6←3.0←3.4)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	②	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	②	1

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・退学率は昨年度より減少しているが、さらなる努力が必要である。 ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価と言う点は、得られる情報に限りがあり、十分に把握できていないと思う。
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・今まで以上にわかりやすい授業を展開し、細部にわたる指導を実施する。 ・同窓会、ラリー大会等の卒業生が参加するイベントを通じて、卒業生の効率の良い情報収集などを検討する必要がある。

③特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の2級ガソリン自動車整備士、2級ジーゼル自動車整備士の合格率が100%であったことは評価できる。
--

(5) 学生支援 1級整備学科 3.3 (←3.4←3.3←3.5)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	②	1

①課題

国家試験不合格者に対する支援体制を今まで以上に充実していく必要があり、企業との連携も視野に入れて教育体制を整えていかなければならない。
 次年度からは社会ニーズを踏まえた教育や資格取得を積極的に取り入れ、教育の質を向上させることが重要である。
 事務局側では、高校への説明会や模擬授業などを行っているが、教員側の高校との連携は薄く、なかなか高校側とのつながりが持てないのが現状である。

②今後の改善方策

卒業後は、業務に追われ国家試験対策に取り組む時間がなかなか持てないことから、学校側からの資料提供や解答解説などを SNS やネット環境を使った方法で支援できる体制を整えていくことも検討する必要がある。

③特記事項

特になし

(5) 学生支援 自動車整備学科 3.4 (←3.3←3.4←3.4)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	②	1

①課題

高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育は活発に実施されているとは言えない。

②今後の改善方策

高校・高等専修学校との教育連携は現時点では難しいと思われる。ただ広報活動の一環として高校等で授業を行っているので、これをもっと活性化していければと思う。

③特記事項

特記事項なし

(6) 教育環境 3.7 (←3.7←3.3←3.3)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 ③ 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

①課題

- ・実習スペースが不足ぎみである。
- ・設備、教材の老朽化

②今後の改善方策

- ・スペースの有効利用のため、不要品の廃棄、外部倉庫の利用、同時に実施する実習内容の検討
- ・教育効果の高い設備・教材の導入を次年度に導入する。
- ※ 311 実習場の換気設備の設置、ワイヤレスマイクの交換、111 実習場のプロジェクタ及びスクリーンの交換、電気自動車の追加、T/M脱着用車両の追加、デジタル・オシロスコープの交換、実習分解用V型・直列エンジンの交換など

③特記事項

- ・実習環境改善の為、実習場壁の塗装を実施。
- ・二級課程でもコモンレール・ディーゼルエンジン搭載車両の教育を導入した。
- ・一級課程において最新車両に対応した、外部診断機を導入。
- ・見積り作業の実習用に新型 PC15 台を導入し、NET を利用した授業を実施した。

(7) 学生の受入れ募集 3.3 (←3.7←3.7←3.6)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・学生募集は、適性に行われているか	4 ③ 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・18歳人口減少期の中、大学・短大進学率が50%を超え、さらに高校卒業生の就職内定率が好調となり、専門学校入学者を確保するには厳しい環境が続いている。他校との競争の中で本校の魅力を知らってもらうには、体験入学は重要な位置づけとなるため、内容を工夫し自動車整備士として働く事の魅力を伝えることが重要と考える。 ・体験入学を経て出願する学生が多いことから、体験への参加者数を増加させる努力が必要である。従って体験参加者に占める出願者を増加させるためにアフターフォローの強化が重要となる。現在も出願の可能性が薄い学生に体験後のフォローは行っているが、より効果的な方法を知恵を集め再考する必要がある。 ・入学者に占める留学生の割合は年々増加しており、日本語能力に関してはまだまだ未熟な学生が多く、自動車整備士の仕事内容や専門学校で学ぶ内容を十分理解せずに入学者が存在する。従って出願前の説明を丁寧に行い十分理解してもらう事も必要である。
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会や模擬授業で体験参加を呼びかけ、その場で予約を取り付けることで、参加率の増加を狙う。 ・体験入学、見学会、高校訪問等では職業としての自動車整備士の魅力を伝えられるように、至急検討し実施する。 ・体験参加者からの出願率を増加させるため、出願見込みのある学生は勿論、見込みの少ない学生へのアプローチ方法を見直し、より効果的な方法を検討し確実に実施する。 ・高校3年生が募集対象の中心であるが、裾野を広げて、1年生、2年生の低学年時から惹きつけ、長期戦で入学受験者を大事に育てる。 ・今後ますますWeb依存が高まると思われ、HP管理、Web広告、SNS等の職員に向けた教育も必要となる。
--

③特記事項

特になし

(8) 財務： 3.5 (←3.5←3.5←3.2)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適性に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 課題

2年連続で入学者が減少した。若者の自動車離れや、高卒者の就職率の改善を背景に、学生の確保が難しくなっており、募集活動にいつもの工夫が求められている。今回は2級整備士の国家試験の合格率が2部門とも100%だった実績を強調して、学生の確保に努めたい。

② 今後の改善方策

空き教室を活用した貸し教室の利用を促進し、収支の改善を進めたい。経費削減は、スクラップアンドビルドの考え方で、引き続き努力していく。

③ 特記事項

特になし。

(9) 法令等の遵守：3.8 (←3.8←3.5←3.5)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

個人情報保護法の改正に合わせ、個人情報保規定・細則の改定準備を進めた。サイバー攻撃による情報漏えい事例が頻発しており、学校としても、個人情報保護の徹底に全力を挙げている。残業抑制を推進し、定時間勤務の浸透を図っていく。特に水曜日は「ノー残業デー」としているが、十分徹底できておらず、様々な工夫をする。

② 今後の改善方策

コンプライアンス上の問題が発生した場合は、速やかに第一報を所属長に上げるように教職員一人ひとりに求めている。報告を受けた所属長は、遅滞なく、理事側に報告し、必要な対策をすぐに取りれるようにしなければならない。学校での危機管理の重要性については、全教職員の自覚が欠かせない。学生に対してもきめ細かい指導をしていく。

③ 特記事項

法改正の動向を的確に把握し、速やかな対応をする。

(10) 社会貢献・地域社会 2.7 (←2.7←3.0←3.0)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	②	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

①課題

- ・企業連携において資格講習や講座の開講はしているが、地域との連携は不足している。
- ・地域の防犯や安全について、区役所などの公共機関との連携を行い、地域活動に積極的に参加することを検討。
- ・学生に対し、社会人マナーを身に付けさせる目的で、更に効果的な学生指導を検討する。

②今後の改善方策

- ・学校内での教育だけでなく、地域の教育機関として地域へ貢献も検討する。
- ・開かれた学校として、積極的に公共機関との連携を模索する。
- ・社会人意識を養うためにも、学校外でのボランティア活動も積極的に検討する。

③特記事項

例年実施している、日本テレビ系の24時間TVのボランティア活動において、近隣の清掃活動を実施しており地域との連携を心がけている。

(1 1) 国際交流 (必要に応じて) 3.3 (←3.0←3.0←2.7)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っているか	4	③	2	1
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	②	1

①課題

・11 か国からの留学生が学び、最多国は中国からベトナムに替わり、非漢字圏の留学生が増加している。全入学生の半数に迫るほどに増えた留学生の中には、N2 レベルに達しないような日本語能力が劣る学生もおり、N1 取得に向けた日本語教育を専門教育と並行して行うことが益々重要となっている。

②今後の改善方策

・入学試験における能力評価や職務の適性などをより厳正に評価する。

③特記事項

国際交流においては、毎年、本校在学生の中から選抜（経費学校負担）あるいは希望（経費自己負担）により、オーストラリアの語学研修に派遣しており、本年度は本校から選抜 1 名が参加した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

平成 28 年度は、昨年度に続き、企業で行われている実践的な実習内容を取り入れること、「読売式メソッド」をより具体化しカリキュラムへ落とし込むこと、退学率の改善などを目標とし、取り組んできたが、今後も継続して取り組むべき課題である。

二級課程では二級国家試験のガソリン、ディーゼル共に全員が合格することができ、目標を達成することができた。一級課程の国家試験結果は、全国平均を大幅に超える合格率ではあるが 100%を達成することができず対策授業の見直しが必要である。授業内容や教育計画についても再検討し、次年度には良い結果を出すために具体的な取り組みを実施することが重要課題である。

一級課程においては、電気自動車の普及と EV 用充電器のインフラ整備が政府の方針となっていることを受け、一級整備士課程のカリキュラムの中に選択教科として「第二種電気工事士」の資格取得のための教育を実施している。3 年生への教育は順調であるが、次年度から教育内容を充実させる目的で姉妹校の電気学科教員に授業を委託することを予定している。

二級課程での実習授業では、コモンレール搭載の実習車両を導入し新技術への対応を行った。今後も、自動車技術の最新動向と整備内容の変化を把握し、授業内容を見直し改善することを通して職業に特化した教育を実現する方向性を持ち続けることとしている。

今年度の退学率に関しては、一級課程、二級課程共に大幅に低減することができ、目標を上回る値を達成できた。次年度も 1 年生の退学率を抑える努力を継続する。退学理由の上位である「進路変更」「学力不足」「単位数不足」を念頭に置き、教育内容の改善に取り組むと共に、臨床心理士カウンセラーとも連携して、学生の学習意欲の向上対策を広い視野で検討することとする。

「読売式教育メソッド」は、「人間力」「専門力」「就職力」「資格取得力」「基礎学力」の五つの柱を明文化し、創立以来の伝統である「面倒見のよさ」「少人数主義」に代表される教育方針を、学生にどんな力が身につくかという観点からまとめ直したもので、本校の教育手法の特色と強みをわかりやすく打ち出した。今後は、本校が育成したい人材像をより明確にし、それをカリキュラムに反映する取り組みを今後も継続的に取り組む。

学生募集に関しては、少子化が進む厳しい状況下での活動であり、昨年度実績を上回ることができなかった。ただし、H28 年度も留学生によるところが大きいため、長期的に安定した学生募集を行う上で、女性を含めた日本人学生の募集強化に努めることが重要であり、次年度以降も継続的な課題である。